

虹山団地 伸びた街路樹

市が低木に植え替え方針



た街路樹をめぐり住民はアンケートを実施。その結果、大きくならないう樹木への植え替えを1月、市は植え替え



虹山団地の街路樹、剪定前(右)と剪定後(2013年11月)

安佐北区亀山南4、5丁目虹山団地で大きくなっ

の方針を決めた。30年以上経った街路樹の巨木に頭をかかえる団地は多く、虹山の取り組みが注目されている。虹山団地の街路樹は



矢野道一 会長



北村敏 会長



西田征義 会長



北村敏 会長



西崎正信 会長



山岡昌興 会長

200本を5年計画

住民は毎年、落ち葉の清掃で苦労。樹木や枝が電柱、電線に接触し、断線の恐れがある。車道や歩道、下水溝、宅地まで根を張り、路面が起伏して危険。宅地の損傷も発生した。このため住民や地権者176人は97年に歩道の拡幅と街路樹の撤去を区役所に要望。街路樹を管理する維持課は、住民の清掃負担を減らすため落葉前に枝

「大きくならない木に植え替える」が大勢を占めた。矢野会長(66)「亀山南5丁目」は1月16日、宅地の前や交差点での事故防止に配慮した植樹位置の決定も含めた植え替えを維持課に要望した。『今の木は問題を抱えながら大きくなるばかり。現状では解決策がないという市の考えが示され、住民としては、街路樹は残す。た

向き。樹種は落葉樹がハナミズキ、常緑樹はクロガネモチなどが検討される見込み。虹山団地では狭い歩道に街路樹が植わり、歩道は自転車通行も指定。沿線住民は安全面に不安を抱いている問題もある。今回のアンケートについて各区自治会の報告書は次の通り。

1区(312人)の街路樹は18本。西田征義会長(75)「亀山南4丁目」は「街路樹通り」と班長の計30人にアンケート。低木への変更が約半数の16人。全

70年に植えた樹木が台風で壊滅したあと、80年から5年かかって市が植えた。植樹から35年近く経ち、大きい木は高さ5、6メートル、幹周り160センチ前後になり、並んで立つ電柱の電線以上に達している。街路樹は緑陰や紅葉など環境の演出、火災時の防火帯などの効用がある。一方で通りの

「植え替え案」を初めて提示。住民の意向調査を求めた。これを受けて連合会は各区単位でアンケートを実施。その結果、

たし、佐才にすると、う考えでまとまった。今後、植え替えて団地に新しい景観が生まれるのが楽しみ」と矢野会長。

3区(214人)の街路樹は48本。北村敏会長(69)「以下、いずれも亀山南5丁目」は「全会員を対象にアンケートを実施。低木に植え替えるが84%を占めた。また、街路樹は必要が74%、他は不要。必要は四季が楽しめる、不要は歩道に根が張り危険などが多かった」と必要、不要の理由を報告。

4区自治会(225人)の街路樹は52本。西崎正信会長(81)は「街路樹通りと自治会役員計39人で意見交換。87%が撤去、または間伐しながら木の種類を考え、年次計画で植え替える意見だった。木がガードレールの役目をした報告もあった」と効用の例。

5区自治会(248人)の街路樹は83本。山岡昌興会長(72)は「全会員を対象にアンケート。街路樹通り80・5%が今の木の撤去と低木への植え替えだった。全体での同意見は59・3%。駐車場を作るのに街路樹2本の移転費用を負担した住民もいる」と説明した。